

⑤中小企業生産性革命推進事業(論点シート)

論点1 補助対象についての検討を深めるべき。

- 予算ありきで採択をしていくと、これまでよりもレベルが低い事業に対する補助が行われることになりかねないため、審査を厳格に行うべき。
- 審査担当によって審査の厳しさが違うことがあり、地域差をなくし、中立性を高める取り組みをさらに検討すべき。
- 広く補助金が行き渡るよう、複数回受給しづらくなる仕組みを減点以外にも検討すべき。
- 複数の補助金の併給を受けられる体力のある中小企業は限られるため、同時に複数の補助金に応募した事業者への採択は厳しく審査すべき。
- 電子申請のみとすることが補助対象を狭めることとならないか、サポート体制は十分か、再度検討を行うべき。

論点2 成果測定の実施方法を十分検討すべき。

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた時期と比較すると、成長目標の達成が容易になってしまったため、付加価値額の増加率等の成果測定に当たっては、比較対象をよく検討すべき。
- 補助金を受けなかった事業者と補助金を受けた事業者を比較し、補助金の純粋な効果を測定する方法を検討すべき。その際、(特に補助金を受けなかった事業の申請時及びそれ以降の財務情報など、)検証に必要なデータの整備に取り組むべき。
- 補助金の効果測定の観点からも、複数の補助金の併給を受けることは相当限定的な事業者とすべき。仮に複数の補助金を受給する事業者の限定が難しい場合でも、個々の事業者が経産省のどの補助金を受給しているのかが網羅的に把握できるようにし、効果測定に活用すべき。

論点3 補助金の差別化と事業者に対する説明について。

- 補助対象経費が似ている補助金があるため、補助金間の差別化を行い、事業者に分かる形で示すべき。
- 同じ補助金に複数メニューがある場合、事業者がどういう申請をすることができるかを分かりやすく示すべき。